

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市港区海岸通1-1-10	氏名	株式会社 海遊館 代表取締役社長 三輪 年
特定事業者の主たる業種		82 その他の教育, 学習支援業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		水族館・商業施設		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	13,668 t-CO ₂	13,880 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,787 t-CO ₂	15,286 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	0 %	8.2 %	8.1 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.8 %	6.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>H28年度はCGSの運用は保安用とし、通常は停止したのでガスの使用量が643千m³削減できた。また、CGSの補機の電力量がなくなった為、全体の電力量(買電+自家発)が628千kwh削減できた。平成26年11月からニフレルがオープンした。平成28年度は平成26年度に比べて電気756千kwh、95千m³増加した。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネ法にもとづき、エネルギー使用量と温室効果ガスの排出量の定期報告を行い、温室効果ガスの排出および人工排熱の抑制対策を実施していく

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1215) ろ過ポンプの 循環流量を回 転数で制御	水族館循環ろ過システムのポンプにイン バーターを取り付ける。(11kwのポンプ 7台 7.5kwのポンプ6台) (年間 237t-CO2を削減)	28 年度
	レ	人工排熱				30 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1217) 昇降設備の更 新	昇降設備の更新 8台 (年間 36t-CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				31 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1214) コージェネ レーション発 電機 運用変 更	コージェネレーション発電機の運用の変 更 (常用運転から保安用運転に変 更、通常は運転しない) (年間 597t-CO2を削減)	28 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1125) 冷却塔の注入 薬剤の変更	冷却塔の注入薬剤の変更による熱交換効 率の改良 (年間 13.7t-CO2を削減)	27 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				~
						年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区淡路町 四丁目4番11号	氏名	株式会社ガスアンドパワー 代表取締役社長 伊藤 宗博
特定事業者の主たる業種		33電気業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		(1) 電気供給事業 (2) 冷温水、蒸気、その他のエネルギー供給事業 (3) 前各号の事業に関する調査、企画、開発、出資 (4) 前各号に附帯又は関連する一切の事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,280 t-CO ₂	5,321 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,319 t-CO ₂	5,363 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (26 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-1.5 %	-1.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-1.4 %	-2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (送電電力量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

前年度(平成28年度)は、基準年度に比べまして、送電電力量が約16.8%減少し、CO ₂ 発生量は、基準年度の6280tに対して、5321tと減少しましたが、発電設備の性能劣化に伴う効率低下に伴い、原単位を改善することができませんでした。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ①エネルギー管理者の選任を初めとする「エネルギー使用の合理化に関する法律」に基づくエネルギー管理推進体制の整備
 ②エネルギー管理標準の設定及び従業員への周知
 ③定期的な温暖化対策に関する教育の実施
 ④昼間休憩時間の消灯

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1112) エネルギーの使用に関する データ管理	日間、月間、四半期ごとのエネルギーの使用に関するデータを管理する発電設備の効率を継続監視する。	28 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1114) 定期的な設備の保守点検	春と秋に設備の定期整備を行うことで、最適な設備に継続的に維持管理する。	28 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1111) 推進体制の維持	「エネルギー使用の合理化に関する法律」に基づくエネルギー管理推進体制を維持する。	28 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1112) 薬剤変更の効果に関する データ管理	防食剤の変更に伴う夏場の復水器真空度の改善を通じて、発電効率の改善を図る。	28 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府門真市中町1番1号	氏名	門真市役所 門真市長 宮本 一孝
特定事業者の主たる業種		98地方公務		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		地方自治法に基づく、事務事業を実施しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	28,751 t-CO ₂	25,192 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	30,152 t-CO ₂	26,644 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	3 %	11.4 %	12.4 %	0 %
		0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	10.7 %	11.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>一般廃棄物焼却処理量が減少したことにより温室効果ガスは前年度より削減できた。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

地球温暖化対策実行計画（事務事業編）と整合性を図りつつ、エコオフィス推進委員会及びエコオフィス推進員を通じて、毎年度の現状と課題を把握し、温室効果ガス排出量削減に向けた進捗管理を実施します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全施設	コード (1111) エネルギー管理	使用したエネルギーを把握し、適切な進捗管理を実施します。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全施設	コード (1215) 節電	職場におけるOA機器等の節電を周知・啓発することにより、電気使用量の削減に努めます。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全施設	コード (1216) 運転管理	冷暖房の適正温度設定により、エネルギー使用量の削減に努めます。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (1112) 運転管理	日常の運転管理を徹底することにより、高効率運転を行うように努めます。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (1114) 設備等の維持・保守	定期的に設備機器などの点検及び保守を行い、安定した稼動状況を維持します。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (1121) ごみ質の一定化	安定した燃焼をするために、一定のごみ質になるように努めます。また、空気比をごみ質に応じ、最適な状態に設定します。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (1122) 運転管理	空気設備の温度設定を最適に行えるように運転管理し、不要時においては、適宜電源を切ります。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (1126) 負荷の低減	台数制御により出力及び圧力を適正に調整し、電動機の負荷を低減させる。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (5121) 氷蓄熱	夜間電力を利用して、氷（夏季）やお湯（冬季）を作り昼間の空調に使用します。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (1299) 低温触媒の導入	ごみ焼却施設の脱硝反応塔において、低温触媒を導入することにより、エネルギー使用量の削減に努めます。 ⇒H28年度更新時期を検討中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	門真市ク リーンセン ター	コード (5115) デマンド監視装置	デマンド監視装置により、ピークカットを行うことで、電気の平準化を図ります。 ⇒H28年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全施設	コード (2112) 燃料使用量の 把握	走行距離及び使用した燃料を把握することにより、過去と比較することで動向を確認します。 ⇒H28年度 実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全施設	コード (2123) エコドライブの 推進	エコドライブの周知・啓発を徹底します。 ⇒H28年度 実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	北海道札幌市中央区大通東3丁目1-19 Kビル	氏名	株式会社 カナモト 代表取締役 金本 寛中
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		建設機械器具のレンタル、鉄鋼製品の販売、及び情報関連機器のレンタル		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,640 t-CO ₂	4,786 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,674 t-CO ₂	4,816 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-2.8 %	-31.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-2.6 %	-31.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両台数の増加により、温室効果ガスの増加につながったと思われる。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

所内の使用エネルギー削減の為、各使用エネルギーに対する使用状況の把握を行い、その上で具体的な削減目標の実行を進めてゆきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪中央営業所	コード (1122) 空調設備の運用改善	冷房温度27℃ 暖房をエアコンから直接過熱 (ストーブ) へ	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪東営業所	コード (1122) 空調設備の運用改善	冷房温度27℃ 暖房をエアコンから直接過熱 (ストーブ) へ	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪南営業所	コード (1126) 消灯の適正化	工場設備のこまめな消灯	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪北営業所	コード (1122) 空調設備の運用改善	冷房温度27℃ 暖房をエアコンから直接過熱 (ストーブ) へ	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪中央営業所	コード (2123) エコドライブの推進	水銀灯をLED照明導入	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪東営業所	コード (2123) エコドライブの推進	各車両ごとのエコドライブに勤めます	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪南営業所	コード (2123) エコドライブの推進	各車両ごとのエコドライブ推進に勤めます。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	大阪北営業所	コード (2123) エコドライブの推進	各車両ごとのエコドライブ推進に勤めます。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大坂府大阪市北区中之島2-3-18	氏名	株式会社 カネカ 代表取締役社長 角倉 護
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		化成品、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品、医薬品、医療用機器、電子材料、合成繊維の製造及び販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	41,731 t-CO ₂	40,100 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	41,811 t-CO ₂	40,176 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-2.4 %	1.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-2.4 %	1.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (換算生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

大阪工場では、塩化ビニール・発泡樹脂・機能性樹脂など原材料の製造と医療機器製造を行い、まったく品種の違う製品を製造しているため、単純原単位では各製品の生産量の増減により原単位が大きく変動するため、会社の方針としてエネルギー使用量の一番多い高砂工業所の苛性ソーダの原単位を基準とし、生産量換算法にて原単位指数を算出し報告する。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

第2年度は、1.8%の削減率であり、目標である2.0%以上の削減に至らず。しかしながら工場生産量の増加や研究エリア拡大による床面積増により、換算生産量が増加したこと及び省エネ努力による成果があり、第1年度でのマイナスを大きく返済することが出来た。第3年度の3.0%削減に向け、温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策を推進していき、削減率達成に努めていきます。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場長がエネルギー管理手続きを定め、エネルギー管理の統括的責任を持つと共にエネルギー管理委員会の委員長を務める。各部署長は、自部署のエネルギー管理に関する責任と権限を持つと共にエネルギー管理委員会の委員を務め、自部署のエネルギー管理標準を作成し、下記の①～⑤の管理を行う。

動力TLは、エネルギー管理委員会の事務局を運営し、エネルギー管理士はエネルギー管理委員会の事務局員を務める。又、各課省エネ改善推進提案の支援を行っている。

- ① 運転管理基準の制定・改訂 ② エネルギー原単位又は使用量の管理
 ③ エネルギー使用設備・機器の維持管理 ④ エネルギーの使用に関する測定・報告・記録
 ⑤ 運転管理基準の遵守状況の記録

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 効率の良いブロワーに更新する	高効率ブロワーへ更新による省電力	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	大阪工場	コード(5111) 効率の良いエアコン・空調機に更新する	各室老朽エアコン更新による省電力 空調機更新による省電力、新規設置時の最適機種を選択 ⇒H27, 28年度 一部機器実施	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	大阪工場	コード(1125) 機器放熱診断による保温二重化	蒸気配管の保温強化(e-エム工法)による蒸気ロスの削減	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	大阪工場	コード(5112) LED照明へ取替え、新規LED照明採用	既設照明老朽化に合わせた、LED照明への取替え 新規設置照明への積極的なLED照明採用 ⇒H27, 28年度 一部機器実施	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	大阪工場	コード(5221) スパコンの設置によりエアコンの効率アップ	エアコン・空調室外機へのスパコンの設置による省電力 ⇒H27年度 HTX一部機器実施	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 効率の良い圧縮機を使用する、台数削減	計装空気圧縮機統合化による省電力	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	大阪工場 大阪本社 大阪工場RD エリア	コード(1199) クールビズ期間の延長	工場のクールビズの期間を6月初め～9月末であったのを、5月16日～10月15日まで延長し、エアコン電力使用量を削減 ⇒H27, 28年度実施	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	大阪工場	コード(1199) 夏季、冬季節電期間の節電呼掛け	・エアコン設定温度管理強化 ・昼休み・退場時の不要照明消灯徹底 ・パソコンスリープモード活用 ・待機電力削減 ⇒H27, 28年度実施	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
9	レ GHG排出	大阪工場	コード(1114) スチームトラップ診断による漏れロス管理	スチームトラップ診断器・メーカー活用し、漏れ有るスチームトラップ取替えによる蒸気ロス削減 ⇒H27, 28年度 一部トラップ整備実施	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				
10	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) インバーター制御化	EG循環ポンプインバーター制御化による省電力 ⇒H27年度完了	0年度～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				

11	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) インバーター制御化	CAPチラー送水循環ポンプインバーター化による省電力 ⇒H27年度完了	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1125) エアラインのループ化	KVC工程エアラインループ化による省電力 ⇒H27年度完了	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
13	レ	GHG排出	大阪工場RD エリア	コード(1112) 電力使用量データロガー導入による管理強化	電力盤へのデータロガーを設置し主要建物での電気使用量の見える化の推進 ⇒H27年度データロガー設置	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
14	レ	GHG排出	大阪本社	コード(1218) 照明清灯システム導入	フロア夜間一斉消灯システム導入(20時と22時に一斉消灯)による残業時間削減啓蒙と消灯励行 ⇒H27, 28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
15	レ	GHG排出	大阪本社	コード(1113) 照明清灯励行	人のいないエリアの消灯励行 ⇒H27, 28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
16	レ	GHG排出	大阪本社	コード(1113) 空調時間の短縮	オフィス内でも常時は人がいないエリア(応接室、会議室、倉庫)について、環境状況を精査し、空調時間の短縮運転を検討 ⇒H27, 28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
17	レ	GHG排出	大阪本社	コード(1113) 空調時間の短縮	休日出勤時の空調運転時間、エリアを極力抑制 ⇒H27, 28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
18	レ	GHG排出	大阪本社	コード(1112) 室内環境の計測	執務室内空調は、室内環境状況を計測把握し、効率的な設定運転を継続(夏季のサーキュレーター併用運転(室内空気循環)、春季・秋季の昼休み空調停止) ⇒H27, 28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
19	レ	GHG排出	大阪工場RD エリア	コード(1114) 蒸気漏れ箇所の修理	蒸気配管の保温強化、ドレントラップの診断、修理。未使用ラインの整理。 ⇒H27, 28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1125) 減圧弁により蒸気圧力を下げ放熱ロスの削減	設備昇温条件見直しによる蒸気の圧力減圧を実施。 ⇒H28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					
21	レ	GHG排出	大阪工場RD エリア	コード(1112) 電力使用量データロガーの活用	系統で300kwh/月以上使用している箇所について抽出し、改善実施。 ⇒H28年度実施	0	年度
		人工排熱				0	年度
		平準化					

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)	
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2112) 自動車走行距離・燃料使用量の管理	自動車運転距離の長くなる構外への移動において、走行距離の記録をおこなう。また、燃料使用量について記録する事で燃費管理を推進。	0	年度
		人工排熱				0	年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市新町2丁目5-1	氏名	学校法人 関西医科大学 理事長 山下 敏夫
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		関西医科大学枚方学舎 関西医科大学附属病院 関西医科大学総合医療センター 関西医科大学香里病院 関西医科大学牧野学舎(関西医科大学附属看護専門学校) 関西医科大学附属天満橋総合クリニック 関西医科大学情報交流センター		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	29,898 t-CO ₂	29,034 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	32,226 t-CO ₂	31,189 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	-1.2 %	5 %	2.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.1 %	3.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

基準年度(平成26年度)の総排出量(29,898 t-CO ₂)と前年度(平成28年度)の総排出量(29,034 t-CO ₂)との比較では、2.9%の削減となります。 今後も一層の省エネルギー対策活動を推進し、温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全学にて省エネルギー推進委員会と省エネルギー実行委員会を設け、職員及び学生に温暖化防止や省エネルギーに対する啓蒙活動を行う。
 夏季の冷房設定温度を28℃として、省エネ巡回を実施する。
 不必要な空調の停止、照明の消灯を行い、診療及び研究活動に支障がない範囲で省エネルギーに努める。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 推進体制の整備	省エネ意識の向上・ポスター掲示・重点 広報・年間光熱費メールにて配信 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 運転管理	冷暖房の運転制御・管理システムの運用 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 運転管理	休日・夜間のエレベーター運転時間の調 整 ⇒H28年度、一部実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照明間引	不要照明の消灯 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	枚方病院	コード (1113) 運転管理	効率と経済的観点からコージェネレー ション設備の運転におけるデマンド抑制 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 推進体制の整備	各部署で省エネルギー巡視活動として (省エネ・エコ活動)、1週間に1回巡視を 行う。 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1299) 設備導入	エアコン更新時(電化製品)には省エネ対 策商品の選定を行う事とする。 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブ の推進	全車がエコドライブを実施 ⇒H28年度、実施済み。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市稲田上町2-8-63	氏名	株式会社 関西岡村製作所 代表取締役社長 中村 雅行
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		オフィスシステムや収納システムを主体に生産している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,671 t-CO ₂	5,217 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,081 t-CO ₂	5,675 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	6.2 %	9.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6 %	9.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度は生産量は前年比約107.1%となった。天板組立ライン変更による生産性向上、成形機(550 t→315 t)変更によるエネルギーのムダを排除</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

毎月省エネパトロールを実施し、指摘改善を環境対策会議で報告・確認する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG 排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1112) インバーター制御 にし効率アップを図る	コンプレッサー台数制御による最適運転。	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1113) 設備が必要な 圧力の再設定 の実施	設備使用圧力の見直し及び再設定。	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1113) ライン非稼動時の空運転の削減及び制御変更。 不用時に停止させる	ライン非稼動時の空運転の削減及び制御変更。	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1121) 焼付け温度の 再見直しを行う	塗装乾燥炉設定温度の見直し。	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1114) 故障時間を削減しエネルギーロスを無くす	チョコ亭、故障時間の削減	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1215) 塗料循環が不要なタイプへ変更	電着塗料変更による電力使用量削減。	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1113) 排熱を利用し ガス使用量削減	脱臭炉排熱再利用によるガス使用量削減。(CL014)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1114) 再塗装品を削減しエネルギーロスを無くす	工程間 (塗装) 不良の削減	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1211) 乾燥炉廃止	マリン接着方法変更・・・PUR塗布による遠赤乾燥炉使用停止。遠赤乾燥炉のコンベア、ガス使用量削減。	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1215) 省エネモーターへ変更	高効率モーターへの変換・・・トップランナー方式モーターの採用	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG 排出	関西岡村製作所	コード (1215) 設備更新	550 t 成形機更新・・・330 t 成形機に変更による電力量削減	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

12	レ	GHG排出	関西岡村製作所	コード(1215) ライン変更	縁貼り1号機ライン変更・・・ライン変更による稼働時間削減	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	関西岡村製作所	コード(1211) インバーター制御による効率アップ	ボイラー更新、台数制御による消費電力・ガス削減	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
14	レ	GHG排出	関西岡村製作所	コード(1113) 排熱を利用し電気使用量を削減	組立コンプレッサー排熱利用による冬期空調電力削減	29年度 ～ 31年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	関西岡村製作所	コード(1112) インバーター制御による効率アップ	ドライヤー台数制御による最適運転	29年度 ～ 31年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市中宮東之町16-1	氏名	学校法人 関西外国語大学 理事長 谷本 榮子
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		◆中宮キャンパス 大学院、大学（英語キャリア学部、外国語学部）、短期大学部 ◆学研都市キャンパス 大学【英語国際学部（国際言語学部）】 において教育を行っている大学		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,202 t-CO ₂	6,329 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,978 t-CO ₂	6,940 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	5.3 %	12 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.8 %	12.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (建物延床面積、教室使用コマ数率)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

延床面積のうち、主に授業使用を行う建物(教室棟)に対して基準年度の授業コマ数7,691(中宮5,961+学研都市1,730)で各年度の授業コマ数を割ったものを係数として掛けて計算する。※平成28年度の授業コマ数7,772(中宮6,212+学研都市1,560) 原単位=総延床-教室棟延床+(教室棟延床×係数)

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

平成28年度は夏・冬の気候が厳しかった為に全体的に空調消費が多く、エネルギー使用量は基準年度と比較して増加した。しかし、平成28年度より中宮キャンパスの買電電気事業者を関西電力から丸紅新電力に変更した影響で温室効果ガス総排出量においては大幅(12%)な削減率となった。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

総務部長を本部長とした「省エネルギー推進委員会」にて定期的に進捗状況報告会を実施して目標達成に向けて取り組んでいきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1112) エネルギー使用 データ管理	エネルギー使用量と施設利用状況を把握して効率的な機器運転を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 過剰時間運転 の防止	施設の実使用時間を明確にして過剰時間運転のないように努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1114) 空調フィル ターの清掃	空調機器フィルター清掃を定期的を実施して不効率にならないようにする。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	片鉾総合体 育館	コード (1218) 水銀灯器具の LED化	消費電力の多い水銀灯器具をLED器具に更新する。(年間71t-CO2を削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	中宮キャンパス	コード (5231) 水蓄熱槽による 電力ピーク カット	夏期の電力ピーク時間帯に水蓄熱槽を運転してピークカットに努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2122) 社用車使用の 抑制	社用車の使用を控えて公共交通機関を利用するよう促進していく。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪タワーA23F	氏名	関西キリンビバレッジサービス(株) 取締役社長 吉村 智士
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は2t～3tトラックで自動販売機を定期的に巡回し商品の補充、売上金の回収のほか新商品の投入等、販売促進活動を行っており、全事業所14支店のうち大阪府下に5支店があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	803 t-CO ₂	986 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	803 t-CO ₂	1,031 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	9.4 %	-4.8 %	-26.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	-32.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府下の当社自動販売機台数)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
削減率ですが原単位を小数点以下5桁までを計算しております。小数点以下二桁(三桁目四捨五入)では数字が小さすぎ計算できません。	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

大阪中央支店ではトラックから軽自動車や乗用車に乗り替えCO ₂ 削減に繋がっているが、昨年度、支店が増えたため電気使用量が増加し、CO ₂ 排出量が増加した。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>1. エコ運転の徹底促進</p> <p>2. プレハブ冷蔵庫の稼働期間の短縮による使用電力の削減</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (1126) 不在時の消灯 等の徹底	事務所不在時の消灯及び空調のオフの継続	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	全事業所	コード (1112) 時間短縮取り 組み	時短による電気設備の使用時間短縮 総実働をH27年2500HからH28年に2375H時 間(5%)に短縮し、電気設備の使用時間を 短縮する	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	全事業所	コード (1112) プレハブ冷蔵 庫の稼働期間 短縮	プレハブ冷蔵庫(12坪)稼働期間の短縮 商品管理の見直しにより冷蔵保管期間を 今までの通年から6～9月4ヶ月間に大 幅に短縮	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全ての事業 所	コード (2123) アイドリング ストップの徹 底	アイドリングストップの徹底 ほぼ徹底できているが小型車がまだ不徹 底 啓蒙ポスターを配布氏徹底を図 る	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
2	GHG排出	全ての事業 所	コード (2123) エコドライブ の推進	エコドライブ10か条 昨年度と今後の実績の比較分析をしながら 指導を継続	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
3	GHG排出	全ての事業 所	コード (2123) エコドライブ の推進	ゆっくり3 (ゆっくり発進・ゆっくり走 ろう・ゆっくり停まろう) ・ど〜んと3 =D o N o t 3 (急ぐな・焦るな・無理 するな) 徹底指導	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	兵庫県神戸市西区高塚台7丁目1番	氏名	関西グリコ株式会社 代表取締役 松下 明信
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・ 当社は江崎グリコ株式会社の子会社であり、本社は神戸市西区 ・ 当工場は江崎グリコで販売するチョコレート菓子及び打錠菓子の製造を行っている。 		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,441 t-CO ₂	5,522 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,795 t-CO ₂	5,692 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.1 %	12.4 %	13.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	14.8 %	15.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産金額)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>2016年度は2015年度導入した冷蔵装置や空調設備に使用している冷却塔の循環水の薬注管理を継続実施にて 冷却塔の効率運転及び冷蔵・空調設備の効率運転の効果が出て電力、都市ガスの使用量が減少した。 また、生産金額も増加したが比較的エネルギー使用量が少ない商品の生産が増加したため、原単位の温室効果ガス排出量が大きく減少した。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

江崎グリコグループ工場全体でECO-GG推進組織を設け、月々のCO2排出量等の実績評価及び改善情報の交換を実施し、成果のあがる取組を目指します

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	レ	GHG排出 人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1113) 空調機全般	<ul style="list-style-type: none"> 空調機の運転台数を気温に応じて増減管理 ⇒ 継続実施中 休日の生産停止時の空調設備運転停止 冷却塔の薬注管理による効率運転 ⇒ 効果向上 (効果数値は増加せず) 	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1113) エアー使用機器、コンプレッサー	<ul style="list-style-type: none"> コンプレッサーの稼働台数制御 ⇒ 継続実施中 エアー洩れ箇所の点検・修理 ⇒ 毎月担当を決めて実施中 	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1113) 生産設備全般 運転時間管理	<ul style="list-style-type: none"> 生産設備の準備・終了時の運転時間削減 ⇒ 担当を決め点検実施中 カレンダータイマーによる自動運転・停止 	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1218) 省エネ照明導入	<ul style="list-style-type: none"> 照明をLED (CCFL含む) に更新 ⇒ 高額になるため再検討中 	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5		GHG排出	大阪ファクトリー	コード (5999) 電力ピーク対応	<ul style="list-style-type: none"> 昼間のみコージェネ運転 7:00～19:00運転中 一部生産部門の夜間稼働へのシフト ⇒ 現時点では未実施 	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	レ	GHG排出 人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (2123) エコドライブの推進	<ul style="list-style-type: none"> 車両使用者全員へのエコドライブの周知・徹底 ⇒ 継続実施中 	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港 中一番地	氏名	関西国際空港熱供給株式会社 代表取締役社長 プノア・リュロ
特定事業者の主たる業種		35熱供給業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		関西国際空港島内における熱供給事業（冷水及び蒸気の供給）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,292 t-CO ₂	6,257 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,647 t-CO ₂	7,825 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	0.4 %	-18.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.6 %	-17.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>高効率ポンプへの更新、冬期における冷水供給温度の変更、使用しない配管の休止措置による放熱ロスの低減を実施し、省エネ・温室効果ガス排出量の削減を行いました。 しかしながら、猛暑により熱需要が増加し、エネルギー消費量(ガス及び電気消費量)並びに、温室効果ガスの排出量の増加となりました。 現在、平成30年度から実施する計画の冷凍機の更新設計を進めており、高効率冷凍機への設備更新により更なる省エネ・温室効果ガスの削減に取り組んでいます。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・「エネルギー管理規程」を制定し、常務取締役を長とし技術部長を責任者とした「エネルギー管理体制」を確立すると共に、「エネルギー管理標準」に基づき、日常における効率的な設備運用状況等を確認し、異常の早期発見によるエネルギーロスの防止ならびに設備改善方法他についての検討に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1225) 地域導管熱ロス削減	南地区地域導管大規模修繕に伴い、不要となった導管を撤去し、熱ロス低減を図る。 CO2削減目標：54 t	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1225) 冷水供給温度の見直し	冷水供給温度を見直し熱ロスの低減を図る。 CO2削減目標：51 t	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1113) ボイラー運用方法の見直し	ボイラーの運用方法の見直しによる消費電力削減 CO2削減目標：50 t	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (5121) 氷蓄熱装置の活用	氷蓄熱装置の活用により、夏期における電力需要の平準化を図る	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1299) 高効率冷凍機の導入検討	吸収式冷凍機の更新計画にあたり、さらに効率のよい機器の導入を検討する	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉佐野市住吉町25番地	氏名	関西製糖株式会社 代表取締役社長 藤田孝輝
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		砂糖の精製及びバイオ製品の製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	27,200 t-CO ₂	26,161 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	27,413 t-CO ₂	26,422 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	-0.4 %	-1.2 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.4 %	-1.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産数量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>工程リカー濃度の向上や結晶缶差し水減少等の改善活動を継続し、使用蒸気量の削減に努めた結果、温室効果ガス総排出量の削減となった。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネルギー推進委員会及び事務局を中心とした、使用燃料の合理化及び効率化、電気量の削減を目的とした取り組みを継続的に実施しています。また、毎月開催される業務検討会（幹部会）の中で、ユーティリティー関連の原単位管理状況を精査し、社長をトップとする経営陣も直接に改善検討に参画することで、実効ある温室効果ガス削減対策に取り組むことが可能な社内体制を維持・継続しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG 排出	人工排熱				
1	レ	GHG 排出	関西製糖(株)	コード (1212) 熱利用設備の効率的運転	工場の使用蒸気の60%を占める真空結晶缶の効率且つ総合的な運転管理を行うことで、蒸気量の削減に伴う使用燃料の削減で、温室効果ガスの削減を目指す。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG 排出	関西製糖(株)	コード (1215) 電気利用設備の効率化	工場の系統ごとに電気使用設備を把握し、省エネ運転及び設備を効率化することで、温室効果ガスの削減を目指す。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG 排出	人工排熱				
1		GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市山手町3丁目3番35号	氏名	学校法人 関西大学 理事長 池内啓三
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		教育、学習支援業を行っており、大学（法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、外国語学部、総合情報学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部）及び大学院、高等学校、中学校、幼稚園並びにエクステンション・リードセンター等の事業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	30,709 t-CO ₂	26,885 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	33,103 t-CO ₂	29,058 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (26 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	3.1 %	13.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.5 %	13 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (建物延べ床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>温室効果ガス削減の一環のうち、節電対策として昨年度に引き続き省エネ推進委員会において節電対策実施徹底(照明の間引き、夏場における空調温度28℃設定の遵守、昇降機の一部停止及び階段使用励行など)を実施した。また、建物の増改築に合わせ照明のLED化を順次行った結果、基準年度比(原単位)にて13.1%の削減を図れた。なお、次年度以降も引き続き節電対策を徹底し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいく。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

法人部長を委員長とする省エネルギー推進委員会を設置して省エネルギー活動を推進し、エネルギー起源の温室効果ガス(CO2)の削減活動を展開する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 適正な運転管理	省エネルギー法の管理標準に基づきエネルギー供給設備、エネルギー使用設備の適正な運転管理を継続実施する	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1114) 適正な保守および運転	省エネルギー法の管理標準に基づきエネルギー提供設備、エネルギー使用設備の適正な運転管理を継続実施する	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1216) 高効率熱源機及び回転集制御システムの導入	新築建物を主体として高効率熱源機の採用及び空調用ポンプ、ファン等の回転数制御を導入して空調用エネルギーの節減を図る	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 高効率照明器具及び調光システムの導入	新築建物を主体として高効率照明器具の採用及び調光・自動点灯のシステムを導入して照明用エネルギーの節減を図る	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1125) 高効率変圧器の導入	変圧器にトップランナー基準の高効率変圧器を導入する	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1214) コージェネレーションシステムの導入	新築建物を主体として、コージェネレーションシステムを導入し、排熱の利用を図ってCO2の発生を抑制する	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	千里山・北陽・高槻 ミューズ キャンパス	コード(2123) 公用車のエコドライブの実施	公用車の全てについてエコドライブを実施する	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

千里山キャンパスにおいて下記の対策を実施している。

- コージェネレーションシステムの導入
ガスエンジン駆動による600kW×2台(H12年9月導入)、815kW×2台(H18年2月導入)、合計4台のコージェネレーションシステムの導入
- 太陽光発電設備の導入
太陽電池利用による76kWの太陽光発電システムの導入
(20kW・H18年2月導入、30kW・H19年3月導入、10kW・H20年3月導入、5.5kW×3・H25年9月導入)
- 特別高圧受変電設備の更新(H26年8月)

高槻ミュージックキャンパスにおいて下記の対策を実施している。

1. コージェネレーションシステムの導入
ガスエンジン駆動による**400kW×2台**(**H22年4月**導入) のコージェネレーションシステムの導入
2. 太陽光発電設備の導入
太陽電池利用による**10kW**の太陽光発電システムの導入 (**H22年4月**導入)
3. 風力発電設備の導入
風力利用による**4kW×3台**の風力発電システムの導入 (**H22年4月**導入)

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区扇町2-1-7	氏名	関西テレビ放送株式会社 代表取締役社長 福井 澄郎
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		テレビジョン放送(関西圏地上波)を主に行っており、イベント事業・インターネット事業等の関連事業も行っている		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	9,585 t-CO ₂	9,718 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,497 t-CO ₂	10,680 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-0.8 %	-1.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.7 %	-1.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>特定事業所(本社屋)に於いて、熱源機器(コージェネレーションシステム)の更新工事を年度下期の約半年をかけて実施しました。モジュール化によりエネルギー使用量削減が期待されることですが、この効果は、翌年度以降に反映されることとなります。一方で、工事期間中はシステム運用が出来ず、今年度の結果として増加する事となりました。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

夜間蓄熱設備の活用効果を高める様に運転時間帯を調整する 建物設備機器の更新による省エネルギー化を中長期的に実施する

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空調温度設定 の抑制	夏季期間 (5 月初旬～10 月中頃) にクー ルビズを実施し、空調用電力及びガスの 使用量を削減する 平成27年5月6日～10月30日実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社屋	コード (1126) 照明設備の見 直し	照明器具更新に際し、LED化の検討を 推し進める 平成27年度に一部実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社屋	コード (1126) 高効率の熱源 機器を導入す る	熱源機器の更新時に、高効率機器の選 択・モジュール化等を検討し、導入す る 平成28年10月～平成29年5月の更新計画 を決定	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 事務所等の照 明器具の間引 き、不要時消 灯	事務室及び廊下等の間引きを行い、不要 時の消灯に努める 平成27年度実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5		GHG排出	本社屋	コード (1113) 熱源機器の運 転時間帯調整	空調熱源機 (夜間蓄熱含む) の運転時間帯 を調整し、電力デマンドを抑制する 平成27年度実施	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	本社屋	コード (2123) アイドリング 抑制と待機時 のエンジン停 止	異動時以外の燃料使用の抑制 平成27年度実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区中之島3丁目6番16号	氏名	関西電力株式会社 取締役社長 岩根 茂樹
特定事業者の主たる業種		33電気業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社が保有する火力発電所、原子力発電所および水力発電所等で発電した電力および他社から購入した電力の供給。 ◆設立：1951年（昭和26年）5月1日 ◆資本金：4,893億円（平成28年度末） ◆従業員数：21,314名（平成28年度末） ◆販売電力量：1,215億kWh（平成28年度） ◆最大電力：3,306万kW（平成13年8月2日）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年	平成 30 年
4 月 1 日	3 月 31 日
(3年間)	

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	300,068 t-CO ₂	266,738 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	304,971 t-CO ₂	271,242 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	7.3 %	11.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.3 %	11.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

府内の温室効果ガス総排出量の約8割を占める火力発電所からのCO2排出量は、稼働率が減少したため、基準年度のH26年度と比べて約12.7%削減となりました。 また、温室効果ガス総排出量の約1割を占める一般事業所等からのCO2排出量は、照明消灯の節電行動の推進等により、基準年度のH26年度と比べて約4.4%の削減となりました。	
安全確保を大前提に、長期的なエネルギーセキュリティの確保や経済性、環境問題への対応を加えた「S+3E」の観点から、最適なエネルギーミックスの追及を基本として、引き続きCO2排出抑制に努めます。	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

C S R 推進会議「環境部会」（主査：環境担当役員、副主査：環境室長）を設置し、全社の環境管理に関する具体的行動計画であるエコ・アクションの策定およびチェック・アンド・レビューなどを実施しています。
 「環境部会」の下部組織として「環境問題対応ワーキンググループ」を設置し推進体制の充実を図っています。

全社の環境管理は環境室長が業務遂行し、各所の環境管理は各所の長が責任者となり実施しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺港発電所	コード (1214) 発電熱効率の維持	省エネ法に基づき管理基準を定め、それを運用することで発電効率を維持に努めました。 ・ H28年度実績：約0.19%低下(根拠資料①-1参照)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	南港発電所	コード (1214) 発電熱効率の維持	省エネ法に基づき管理標準を定め、それを運用することで発電効率を維持に努めました。 ・ H28年度実績：約0.25%低下(根拠資料①-1参照)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西国際空港エネルギーセンター	コード (1214) 発電熱効率の維持	省エネ法に基づき管理標準を定め、それを運用することで発電効率を維持に努めました。 ・ H28年度実績：約3.53%低下(根拠資料①-1参照)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	新北別館	コード (1218) 省電力型照明機器の導入	順次省電力型照明器具 (HFタイプ) 化を行う予定でしたが、H28年度は予算都合により対策未実施となりました。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本店	コード (1113) 事務所エネルギー使用量の削減	高い省エネ性能を有するオフィスビルにおいて、省エネ運用の維持・管理 (減灯、OA機器の電源管理、空調設定の最適化等) を実施しました。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	関西電力病院	コード (1113) 事務所エネルギー使用量の削減削減	新病院におけるエネルギー消費量把握、省エネ機器の稼動 (性能) 確認、省エネ方針検討しました。 ・ H28年度実績：約8.8 t 削減(根拠資料①-2参照)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 事務所エネルギー使用量の削減	不要な場所・時間帯における照明消灯、OA機器の電源管理、空調設定の最適化等を継続実施しました。 ・ H28年度実績：約1,700t-CO2削減	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	電力所、発電所	コード (1225) SF6ガス回収装置の活用	ガス絶縁しゃ断器等の設備点検、除却時におけるSF6ガス回収率の維持に努めました。 ・ H28年回収実績：約99.3%(根拠資料①-3参照)	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード(2123) エコドライブ の推進	アイドリングストップ等エコドライブの 推進・実践により車両燃費の維持・向上 に努めました。(根拠資料②参照)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	支社、営業 所、電力所 等	コード(2121) 電気自動車等 の導入	電気自動車およびプラグインハイブリッド車 を導入しました。 ・H28年度末府内保有台数：111台	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3)その他の抑制対策

◆火力発電所の熱効率維持・向上と天然ガスの更なる利用

当社管内の火力発電所については、設備や運用に関する対策を継続的に行った結果、火力発電所の総合熱効率(低位発熱量基準)は**47.6%**となりました。

また、相生発電所(1、3号機)では、これまでの重油・原油に加えて、より安価で環境性に優れた天然ガスを燃料として利用しています。

◆再生可能エネルギー普及・開発

当社のグループ会社(㈱関電エネルギーソリューション)が、兵庫県朝来市において、未利用木材を燃料とする**5,600kW**の朝来バイオマス発電所の運転を開始しました。また、兵庫県宍粟市において**1,980kW**の山崎太陽光発電所の運転を開始しました。

◆お客さまと社会の省エネ・省CO2への貢献

ご家庭のお客さまのご要望に応じた省エネコンサルティング活動や、インターネットを活用した電気のご使用状況の見える化サービス「はぴeみる電」のご紹介の実施、法人のお客さま設備に対する最適なエネルギーシステムとその運用方法などのご提案を行いました。

実績報告書

届出者	住所	大阪府茨木市横江1-7-1	氏名	関西図書印刷株式会社 代表取締役社長 伊藤 徹
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		近畿、中国地方向けに読売新聞、報知新聞、その他外注印刷物の印刷、発行		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
平成	27年	4月	1日	～平成30年3月31日(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,217 t-CO ₂	4,723 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,682 t-CO ₂	5,156 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3%	4.8%	9.5%
		削減率(原単位ベース)	0%	0%	0%
削減率(平準化補正ベース)		—%	4.7%	9.3%	0%
吸収量による削減率		0%	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>新聞生産量の減少に伴い、消費電力が全体的に削減された。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

ISO14001を認証取得済であり、推進組織のもとで温室効果ガス削減に取り組めます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	冷暖房を適正な温度に設定し、省エネを図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1218)	不要時消灯厳守の再徹底を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	離席時のパソコンの電源オフを徹底する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1217)	エレベータ 4 台の使用時に「1 UP・2 DOWN」の札を取付しエレベータの消費を抑える。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1218)	受変電設備等、工場施設の間引き照明実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	空調運転スケジュールを見直し。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1299)	熱源機器を高効率機器へ更新。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1218)	場内照明のLED化により省エネを図る	29 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	茨木工場	コード (2123)	社用車利用者にエコドライブの推進	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉大津市我孫子1-3-37	氏名	関西トランスウェイ株式会社 池辺 義博
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般貨物運送業・主に食品の輸送ならびに倉庫業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,201 t-CO ₂	7,839 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,322 t-CO ₂	8,313 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-8.5 %	-26.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-11.7 %	-31.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>温室効果ガスについて、前回から増えております。要因として、車両台数の大幅な増車で燃料が増えた事と弊社にとっては、大型の新センターを開設したことにより電力供給量が増えた為です。</p>	
<p>早急に、電力価格を抑えれるよう売電業者を選定し、価格の安い電力の供給をすすめることを考えております。</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

定例の月1回の各営業所の運行管理者による会議等で、エコドライブについての意思統一を図る。・エコドライブの推進（運転者教育）・貨物積載効率の向上（荷姿の見直し）・輸送効率の向上（ルートの見直し）を常時行う。センター内の冷凍・冷蔵庫の稼働が夏季に電力量が増える分、冬季に調整している。

全車に取付られていないドライブレコーダー導入を随時すすめ、危険運転の抑制と燃料の削減に取り組みます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	泉大津営業所	コード (1112) エネルギー使用のデータ管理	エネルギー（電気）使用に関するデータ管理	27 年度～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1125) 不要時の事務機器の電源オフ	不要時の事務機器電源オフや照明の消灯を心掛ける。	27 年度～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1122) 空気調和設備の運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行う（冷房28℃・暖房20℃）	27 年度～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	乗務員にエコドライブ（急発進・急ブレーキ・急ハンドル・アイドリング等）の推進をしていく。	27 年度～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2126) 輸送の効率化	配送コースの見直しを随時かけていく。	27 年度～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2224) 輸送効率の向上に向けた協力	関係者・協力会社を増やし、協力して共同配送システムを構築していく。	27 年度～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

冷凍冷蔵庫の温度確認を行ない、季節や日々の温度調整を行う。

空調設備

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル21階	氏名	株式会社かんでんエンジニアリング 代表取締役社長 青嶋 義晴
特定事業者の主たる業種		6総合工事業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は、発・変電・送配電からなる電力供給インフラの構築、保全を図る技術をコアに、電気設備から情報通信、環境、商品、石油事業にいたるまでの幅広い領域で事業展開しています。なお、大阪府内では7事業所を配置しています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,104 t-CO ₂	3,292 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,456 t-CO ₂	3,674 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	0.9 %	2.4 %	26.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.2 %	26.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府下事業所の延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度の平成26年度と比較すると、温室効果ガス総排出量は6%増。 これは、平成27年度より節電対策の緩和を行ったこと、さらに平成27年度に大阪北支店・大淀事業所・堺事業所の3拠点が大阪北事業所に統合され、大阪府下事業所の延床面積が大幅に増加したことが要因であると考えられる。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社は関西電力グループCSR行動憲章に基づき、具体的行動計画として年度計画を策定し、積極的に推進しています。
また、毎月大阪府内の事業所より計画・実績の進捗状況を報告、改善等を実施しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) クールビズの実施	クールビズ(5/1~10/31)を継続実施しています。 (1)適正冷房(約28℃)の徹底 (2)軽装(ノーネクタイ)による執務の実施	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪北事業所	コード (1218) 照明設備の導入	社屋建替時、省エネ効果の高い照明設備(LED)を導入します。(年間10t-Co2削減)。	28 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	全車エコドライブの継続実施し、前年度対比燃費を1%向上を目指す。(年間5t-Co2削減)。	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 低燃費車の導入等	車は全てリース。年度更新時、低燃費車やハイブリット車等を優先導入する。(年間10t-CO2削減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区中之島3-3-23	氏名	関電不動産開発株式会社 代表取締役社長 勝田 達規
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に不動産賃貸業を行っており、大阪府内で20ビルを所有している。 また、店舗等の賃貸施設を所有している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	21,246 t-CO ₂	24,255 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	23,838 t-CO ₂	27,036 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3 %	8.8 %	4.4 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	9.1 %	5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の賃貸床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

[主な事業所]	<ul style="list-style-type: none"> ・節電対策が緩和になったが、影響のないものについては、継続したため削減に至った。 ・省エネルギーに勤めて成果が上がった。
[主な事業所以外]	<ul style="list-style-type: none"> ・節電対策が緩和になったが、影響のないものについては、継続したため削減に至った。 ・省エネルギー計画を立案し実施したことにより成果が上がった。
平成28年度は通常の事業活動を超えて節電の取り組みを行ったため、基準年度値は、平成24年度から平成26年度の平均値を用いている。	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業者として、会社全体のエネルギー管理体制の確立と省エネルギー推進委員会を設置している。 ・すべての事業所において、毎月のエネルギー使用量および電気需要平準化時間帯の電気使用量を把握し、それぞれ前年度比較し対策を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画の作成時に、省エネシステム機器およびピークカット・ピークシフト機器の導入検討を行う。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大淀昭和ビル	コード(1217) エレベーター改修	エレベータをワードレオナード方式→インバータ方式へ更新 (年間5.03t-CO2を削減見込み)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				27年度
2	レ	GHG排出	堂島関電ビル	コード(1216) 空調機更新	2階展示系空調機更新 (年間23.58t-CO2を削減見込み)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				27年度
3	レ	GHG排出	堂島関電ビル	コード(1216) 空調機更新	1階食堂系空調機更新 (年間5.70t-CO2を削減見込み)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				28年度
4	レ	GHG排出	新宇治電ビル	コード(1216) 空調機更新	1階東系統空調機更新 (年間4.21t-CO2を削減見込み)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				27年度
5	レ	GHG排出	新宇治電ビル	コード(1216) 空調機更新	各階補助空調機更新 (年間37.60t-CO2を削減見込み)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				27年度
6	レ	GHG排出	茨木昭和ビル	コード(1216) 空調機更新	1・3・5階空調機更新 (年間6.14t-CO2を削減見込み)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				27年度
7	レ	GHG排出	茨木昭和ビル	コード(1216) 空調機更新	2・6階空調機更新 (年間20.46t-CO2を削減見込み)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				28年度
8	レ	GHG排出	茨木昭和ビル	コード(1216) 空調機更新	4・7階空調機更新 (年間5.63t-CO2を削減見込み)	29年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				29年度
9	レ	GHG排出	全事業所	コード(1111) 省エネ推進体制の整備	エネルギー管理統括者、企画推進者を設置し、各部門、支店に担当者を置いて、定期的に会議体を開催し、省エネ意識の高揚、情報共有を図っている。	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				29年度
10	レ	GHG排出	全事業所	コード(1199) 照明消灯、間引き	共用部の照明消灯、間引き	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				29年度

11	レ	GHG排出	全事業所	コード (1199) 省エネ運用依 頼	テナントへの省エネに対する依頼。 (執務室内で不使用エリアの消灯など)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	関電ビル ディング 他 2 ビル	コード (1199) 空調温度設定	空調温度条件の変更 (室内温度：冷房時28.0℃、暖房時 19.0℃)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	関電ビル ディング 他 2 ビル	コード (1199) 照明の照度調 整	執務室の照度調整 (300ルクスまでの減灯)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	関電ビル ディング 他 2 ビル	コード (1199) 昇降設備の一 部停止	エレベータ等の間引き運転 階段利用の慫慂	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	南関電ビル 他 8 ビル	コード (5999) 蓄熱設備の利 用	蓄熱槽による夜間蓄熱利用	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	南関電ビル 他 15 ビル	コード (5999) 電気温水器他 の停止	夏季の電気温水器停止、温度設定変更	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業 所	コード (2122) 出来る限りの 公共機関の使 用	関係者に情報連絡会議で協力依頼する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業 所	コード (2199) アイドリング の停止	関係者に情報連絡会議で協力依頼する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市南亀井町4-4-24	氏名	株式会社コントラロジ 代表取締役 中山 幸雄
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、貨物自動車運送事業を行っており、全国で9営業所を展開し、うち、大阪府内では4営業所を展開している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,530 t-CO ₂	3,164 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,530 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	7.4 %	10.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両台数が減少した為、温室効果ガスの排出量も減少した。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・大阪府内の営業所は大阪府トラック協会主催のグリーンエコプロジェクトに参加し、燃費データの適正な管理及び各営業所管理者が2か月度に講習に参加、エコドライブ教育の実施について教育を頂き、営業所にて従業員に教育を実施、エコドライブの向上に努める。

・本社にて車両G管理の専門部署を設置し、営業所各管理者と協力し、適切な車両配置及び低燃費車の導入、管理・教育体制を構築しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	平野営業所	コード(2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に4台、28年度に4台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	27年度 ～ 28年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	貝塚営業所	コード(2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に2台、28年度に3台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	27年度 ～ 28年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	港 営業所	コード(2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に1台、28年度に2台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	27年度 ～ 28年度
	レ 人工排熱				
4	レ GHG排出	美原営業所	コード(2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に2台、28年度に4台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	27年度 ～ 28年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

・大阪府トラック協会主催のグリーンエコプロジェクトへ参加し、適切な燃費データ管理及び従業員へエコドライブを指導する管理者へ講習にて教育方法を指導していただき、従業員へ指導を行う。